

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・地域と共に進める子育て支援事業(すくすくかめっ子事業・外遊び活動支援事業等)について、課題を共有し、企画段階から協働で取り組んだ。対等な関係性と信頼関係を基に、お互いの特性を十分理解し、事業を計画することができた。

・「子育て支援の在り方」について、区と法人が何回も話し合いを重ねたことで、地域に根差した拠点の特徴を活かした事業を計画することができた。

・”妊娠期からの切れ目のない子育て支援”を目的とした、子育て世代包括支援センターの運営に向けて、重要性和互いの役割を共有することができた。

・区の関係機関の会議等に、拠点が繋がったことで、新たな事業計画の提案に結びつけることができた。

【今後改善が必要と思われること】

・拠点事業が14年を経て、様々な社会資源とのネットワークが育まれる中、「地域課題」や「事業の意義」から、更に新たなネットワークチームが立ち上がるという流れが定着してきている。これまでに培ってきた「協働」の取り組みやコーディネータ力を糧に、多方面・他分野の関係機関が繋がり、協働の関係を発揮できるよう、先駆事例を学び、共に学習を重ねていきたい。

・令和2年度に設立された横浜市市民協働推進センターと連携して、ネットワークや視野を広げていく。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・区内全域を対象とした区の事業や関係機関の会議等と、拠点の地域に密着したネットワーク機能の重なり合いを基盤に、拠点の機動力を生かした事業を円滑に進めることができた。

・地域と共に進める事業を実施することで、緊密に連絡を取り合い、事業の意義や互いの理解が深まり、協働の効果を上げることができた。

【今後改善が必要と思われること】

・拠点のネットワークや多様な機関との連携、協働が広がる中、地域課題解決に向けての効果的な進め方やプロジェクトマネジメント力が求められる。

・拠点が取り組む上での、優先順位や間接援助機能について、区と共に検討を重ねていく。

・区と拠点が事業を計画する中で、目標設定を話し合っていくことが必要と考えた。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・毎月の定例会にて、事業報告し、併せて事業を通して得られたニーズや課題を丁寧に話し合い、共有した。また、年度2回それぞれの拠点事業を機能毎に振り返り、課題や子育て支援のニーズを把握・検討し、次年度に反映させた。

・地域と進める事業については、区が各事業に担当を置くことで、振り返りが深まり、事業の見直し、更新に繋がった。更に、お互いの事業についての取り組みや理解が深まった。

【今後改善が必要と思われること】

・限られた時間の中で、効率的に振り返り、互いがチームで共有し、次の事業に反映することができる力量が必要になる。

・共働き世帯の増加や新型コロナウイルス感染拡大防止における新しい生活様式への対応等急激な社会状況の変化に伴い、共に子育て世代のニーズを把握し、ICTの活用など新しい事業展開を提案していく。

・区のアンケートの結果を擦り合わせ、どう丁寧に寄り添うかを共有し、事業に反映させていく。